

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 細川 朋佳
所属 (School) 理学系研究科
学年 (Grade) 博士後期課程 1年

留学先 (Name of overseas institution)
National Taiwan Normal University
留学期間 (study abroad period)
2018/4/25~2018/4/28

記入日 (Date) 2018/5/1

留学レポート Study Abroad Report

私は2018年4月26日に台湾の国立台湾師範大学で開催された'The 4th Joint Symposium of OPU, NTUT, and NTNU on Chemistry'に参加しました。またシンポジウムへの参加だけでなく、参加校の先生方や学生との交流を行ったので、それらを通じて学んだことについて報告したいと思います。

このシンポジウムは、大阪府立大学(OPU), 国立臺北科技大學(NTUT), そして国立台湾師範大學(NTNU)の3校が一同に会して、相互理解を深めるとともに、研究交流を行うことを目的として2年おきに開催されています。今回私は、'Synthesis, Structures, and Properties of Hexapole Helicene with Highly Distorted Structures'というタイトルで口頭発表を行いました。



英語での口頭発表は今回が初めてだったので、当日までちゃんと発表ができるのかとても不安でした。1ヶ月前から発表原稿の作成を行いました。日本語なら説明できる内容でも、英語でどのように表現したらいいのかが分からず、完成するまでとても時間がかかりました。原稿完成後は、毎日1スライドずつ暗記していきました。発音やアクセントの位置が異なると相手に聞き取ってもらえない可能性があるため、しっかり確認しながら原稿を覚えていきました。特に化合物名などは日本語のときとは異なる発音のものが多く、先生に発音の確認を行うことを徹底しました。毎日1スライドずつ覚えていきましたが、やはり英語なのでなかなか覚えられず、覚えては忘れて…を何度も繰り返すことで少し

ずつ定着していきました。また原稿を覚えた後には、発表時間に収まらない・流暢に話せていないといった問題も生じ、それらを克服するため毎日練習を重ねました。

そして発表当日、緊張しましたが無事発表をすることができました。また、コーヒープレイクでは私の発表について他参加者からさまざまなアドバイスをいただくことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。発表準備や練習は大変でしたが、それらを通してたくさんのごことを得ることができたので、このような機会をいただけて本当に良かったと思っています。ただ今回の発表では、質疑応答のときに相手の質問を理解できなかったため、それに対する返答ができなかったため、次発表を行うときにはよりよい議論ができるように英語力を磨かなければならないなと感じました。

シンポジウム後は、NTNU の研究室を見学させていただきました。有機合成系の研究室は府大とあまり大きな違いはありませんでしたが、NTNU にはたくさんの機器が導入されておりとても設備が整っているなと感じました。また、各機器の管理がきちんとされているなと思いました。例えば、MS は府大と同じ型が置かれており、両者を比べると、府大のものはだいぶがたがきておりよく故障をしています。NTNU のものは新品同様の状態で保たれていました。測定機器は高価なものなので NTNU を見習って、もっと管理を徹底する必要があるなと感じましたし、使用する私自身も丁寧に使わなければならないなと感じました。

滞在期間中にはシンポジウムの他にも学生や先生方と交流を行いました。最初は英語で話をする自身がなく積極的に話しかけることができませんでしたが、台湾の学生さんがたくさん話しかけてくださったことで緊張がほぐれ、片言の英語ですが自分からも話しかけることができるようになりました。また、英語で伝えられない部分はボディランゲージなどを使うことでお互いの話を理解することができました。今回の交流を通して驚いたことは、台湾の学生さんの多くが母国語だけでなく英語も話せるということです。日本の学生ももっと英語を身に着ける必要性を感じ、実践的な英語力を磨かないといけないなと感じました。



今回、このシンポジウムに参加できたことは私にとってとても貴重な経験となりました。日本にいると英語を身に着ける必要性を感じることがなかなかできませんが、実際に海外に行ってみると英語ができることは必要不可欠であるなと思いました。そして、今回学んだことを今後の生活に生かしていきたいと思っています。

最後にこのような機会を与えてくださった先生方、そして支援して下さった国際学会 Plus 奨励金制度に深く感謝いたします。